マツダ紙工業株式会社

紙を素材に箱・容器から家具・防災用品に発展

納期相談 / 企画力自信有 / コスト相談 / オンリーワン技術 / メイドインジャパン / 試作可小ロット / 量産対応

さまざまな「魅せるパッケージ」を開発

強み

段ボールケースと紙器の2本柱で事業を展開

段ボールケースからパッケージ、ディスプレイ等の紙器まで、あらゆる紙加工品を製造するマツダ紙工業。同社の強みは、独自の設備と提案力を活かしたものづくりだ。

段ボールケースの分野では、箱の切断面に面取りテープが貼れる「自動四面貼り機」を開発。節句人形ケース等、耐久性と高級感の求められる箱に採用している。また、箱の中に細かな仕切りをつくる「自動仕切溝切機」も導入。木型を使う必要がないので、小ロット品にも低コストで対応できるのがメリットだ。

紙器の分野では、化粧品のパッケージや衣料雑貨のディスプレイ等、デザイン性と機能性の求められる製品に商品企画力を発揮。化粧品メーカーだけでも約7社の得意先を持ち、消費者の気持ちを掴む「魅せるパッケージ」を送り出している。

社会貢献

間仕切り等の支援物資を震災被災地へ寄贈

同社のもう一つの特色は、東日本大震災の被災地に対する積極的な支援活動だ。阪神大震災の時も避難所に段ボール製のパーティションを約300セット寄贈したが、今回の震災ではそれを大きく上回る計2500セットを寄贈した。松田社長を始め同社社員が自社トラックで福島県の避難所へ届けたのだ。

また、避難所の女性が着替えや授乳時に困っていることを新聞報道で知ると、段ボール製の女性更衣室兼授乳室を5セット寄贈。さらに衣類の収納整理に役立ててもらおうと、段ボール製の5段チェストも考案して400個寄贈した。

いずれの支援も被災者に喜ばれ、感謝の声が寄せられた。そこで同社はさらに支援を続けたいと考え、5段チェストに改良を加えた整理タンス「デコチェスト」を商品化し、計370個を福島県や宮城県の仮設住宅へ贈った。

被災地支援から生まれた「デコチェスト」

新製品

支援の気持ちが生んだエコな製品を広範に

「デコチェスト」は強化段ボールを使用し、天面と底面に撥水加工しているので水にも強い。白い段ボール製なので絵を描く等、自由にアレンジできる。もとは約2年居住する仮設住宅で役立ててもらおうと開発したが、段ボール製ならではの特長を活かし、学生等の一般消費者にも販売していく方針だ。また、段ボール製家具のコンセプトをさらに発展させ、幼児向けの机とイスのセットも開発中だ。

一方、パーティションは防災訓練用として近隣自治体が購入。それを受けて、今後は女性更衣室兼授乳室を防災用品として行政機関にアピールしていく。

被災者への支援が誕生のきっかけとなったこれらの製品を、同社の新規分野として確立させていくのが目標だ。

Company Profile　マツダ紙工業株式会社

大阪 23

当社の歴史

創業半世紀を超える当社は、段ボールケース製造メーカーとして創業しましたが、30年ほど前にパッケージ等の紙器類の製造にも参入しました。以来、紙製品全般を製造し、「外箱」も「中箱」もお任せいただけるのが当社の特色です。創業者の現会長から受け継いだ「お客さんが困っていることを解決する」という精神をもって、今後も提案力のあるものづくりにこだわっていきたいと思います。

「お客さんが困っていることを解決するものづくり」にチャレンジし続けます

代表取締役 **松田 和人**さん

■主な事業内容
段ボールケース、印刷紙器、節句人形ケース、ディスプレイ・什器・POP、段ボール製家具の製造 等

■主な取引先（納入先）
電子部品メーカー、人形メーカー、歯ブラシメーカー 等

住　所／〒577-0827
東大阪市衣摺
5-14-24
ＴＥＬ／06-6728-8501
ＦＡＸ／06-6728-3990
創　業／昭和33年7月
設　立／昭和49年8月
資本金／2,000万円
従業員／26名

http://www.matsuda-siko.com